

専門試験－上級－保健師

[No. 1] 飲酒の保健指導に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 「節度ある適度な飲酒量」は、「純アルコールで1日20g程度」であり、アルコール度数5%のビール500mL、アルコール度数15%の日本酒160mLに相当すると説明する。
2. 「節度ある適度な飲酒量」は、体重が同じであれば、性別にかかわらず同じであると説明する。
3. 眠りを助けるための飲酒（寝酒）程度であれば、アルコール依存症にもならず、健康な深い睡眠を得ることができると指導する。
4. 多量飲酒者には、生活習慣病予防のために、具体的な目標を示すのではなく、「これまでより1日の飲酒量を少しでも減らす」といった目標を示す。
5. アルコール依存症の者には、回復のために、数か月かけて少しずつ飲酒量を減らし、その後「節度ある適度な飲酒量」を維持し続けるよう指導する。

〔 No. 2 〕 統計グラフに関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 国別の平均寿命の数値差などが一目で比較できるのは円グラフである。
2. 平均寿命の年度別推移など時間的な経過を見るのに適しているのは帯グラフである。
3. 国内の人口全体に占める年齢階級別の割合が見やすいのは棒グラフである。
4. 人口の年齢構成割合の比較や年度推移を見るのに適しているのは折れ線グラフである。
5. 年齢と腹囲のように同一の検体の二つの量的データの関連性を見るのに適しているのは散布図である。

[No. 3] 「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 認知症の人の状態は、周囲の人々やケアの状態を反映する鏡であるとされることから、認知症の人を支える側の視点に立ち、介護者主体の医療・介護等を徹底する。
2. 認知症の人がなじみの暮らし方を継続できるよう、発症予防、発症初期、急性増悪時、中期、人生の最終段階という認知症の容態の変化にかかわらず、常に自宅において医療や介護を提供することを目指す。
3. 小・中学校において認知症サポーター養成講座を開催したり、大学生に対して認知症介護指導者養成研修を行ったりすることで、児童・学生の認知症への理解を促進する。
4. 「認知症ケアパス」は、認知症の人が自ら作成する医療・介護サービスの計画と定義されるが、個々の認知症の人の意思を尊重した認知症ケアパスが実現できるようサービスの多様化を図る。
5. 認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。